

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400010		
法人名	社会福祉法人陽翔会		
事業所名	グループホームひざり(東ユニット)		
所在地	静岡県島田市金谷代官町802番地の16		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2295400010-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2295400010-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人基本理念である「その人らしく～明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり」に基づき、ご入居者が安心安全な生活を送ることができるよう、個々のニーズに合わせた支援を常に心掛けております。日々のケアの中で気付いたことを分析し、なぜそのような行動をされるのかを考え、その方の「良い面」に注目し、「工夫するケア」を行うようにしています。ご家族においては、対面での面会をしていただけるようになり、面会や電話連絡等においても日々の状態や状況をお伝えし、情報共有に努めております。イベントや外出等の活動も少しずつ以前のように戻りつつあり、やれることを探してご入居者に関わっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

島田市認知症対策検討委員会の委員を拝命した管理者は、「認知症にやさしいまちづくり」に向け、認知症への正しい理解や関わり方の普及啓発への責務を改めて感じつつ、8月より通常開催した運営推進会議では、状況報告及び写真を交えた活動をパワーポイントで伝え、認知症ケアを先導する事業所の存在意義を高めています。認知症を抱えた本人の不安な気持ちを受け止めながら「その人らしさ」に着目し、花壇の手入れに精を出す花好きな人や、毎日の習慣だった晩酌を続ける人もいて、在宅生活を継続できる暮らしを介護計画に位置づけ、理念にもとづいたケアが実践されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく～明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり」を法人理念とし、職員一人ひとりが理念に基づいた介護を行うよう取り組んでいる	理念は年度初めの法人全体研修で説明し、振り返りのレポートで理解度を可視化しています。毎日の習慣であった晩酌の継続や、花壇の手入れに精を出す人など「その人らしく」を意識したケアが実践されていることから、管理者は理念の浸透を感じています。	年度末に達成状況を振り返る機会が設けられることを期待いたします。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ドライブ、散歩、買い物、美容院、かかりつけ病院への外出やを通じて地域との交流を図っている。ボランティアの方々の受入を検討している。	感染拡大の観点から散歩もはばかれる状況でしたが、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、少人数で散歩や買い物に出かける日が増えました。事業所の草刈りや野菜の差し入れはコロナ禍でも変わりなく、長年気にかけてくださる地域の人々に支えられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や高齢者あんしんセンターの職員、地区の防災委員と情報交換を行う中で、地域にお住まいの認知症高齢者の相談窓口的な役割が周知されていると感じる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの流行により、書面開催としていたが、対面での会議を再開し、運営状況等の報告と委員の方々のご意見を参考にサービス向上に努めている。	今年度8月より対面で再開し、状況報告及び写真を交えた活動をパワーポイントで伝えています。「施設の様子がよくわかってよかった。今後でもできる限り対面での開催を」との意見が出され、認知症ケアを先導する事業所の取組を紹介できる会議の重要性を実感しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、積極的に取り組んでいる	運営推進会議には市長寿介護課、地域包括支援センター職員の出席があり、介護相談員も来所しています。管理者は島田市認知症対策検討委員会の委員を拝命し、「認知症にやさしいまちづくり」に向け認知症への正しい理解や関わり方の普及啓発への責務を改めて感じています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新任研修や毎月行っている内部研修で、職員倫理の向上とモラルの徹底を意識するよう取り組みを行い、3か月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、状況の確認や検討を行い、身体拘束廃止の推進に向けた介護を行うようになっている	例外三原則にもとづく拘束を要する利用者は現在なく、委員会では「検討が必要な入居者について」として協議し、方針を統一して拘束のないケアを貫いています。不適切ケアにつながりかねない言葉かけも周知され、職員同士で互いに注意し合える関係構築を目標としています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、職員倫理、権利擁護を学ぶ機会を設け、虐待防止に努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連施設の相談員等と情報交換・共有を図り、制度の活用が必要と思われる方に対して適切なアドバイスができるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約や制度改定に伴う変更等、理解しやすい言葉、表現を使う等、丁寧な説明に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、気兼ねなくご意見をご記入いただけるようにしている。また、推進会議の際にご意見をいただくこともあるため、出席されていないご家族には、議事録を配布している	運営推進会議への出席は家族代表に依頼し、議事録は毎回郵送して運営の透明性を図っています。コロナ禍では日常の様子を写真に収め、コメントを添えて郵送していましたが、5類移行後は制限なく面会できるため、年4回発行の法人機関誌のみを送付しています。	事業所通信の再開を希望する声も聞かれており、検討されることを期待いたします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員面談を行い、その中で意見や考えを聞き反映している。各会議においても意見を述べやすい体制、風土作りに努めている	ユニット会議、リーダー会議を毎月開催し、活発な意見交換がおこなわれています。5年以上勤務する職員が6割以上を占め、環境整備や利用者支援に関して改善が必要と思われることは、事務所に常駐する管理者へ直接打診があり、風通しの良さがうかがえます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談時において、職員の意見や思いを聴く機会を設け、働きやすい環境となるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「基本介護チェック表」を作成し、それを基に自己評価を行い、上長が確認をしている。それぞれの能力や経験、特性を踏まえながら、日常的な指導に生かし、内部研修等の内容についても検討している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に一度、市内のグループホームの管理者や計画作成担当者等が集まる、連絡協議会に参加し、意見交換や情報共有に努めている。また、地区のケアカフェへの出席や島田市の「ケアマネットしまだ」に入会し、情報交換や勉強会に参加している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に可能な限り、ニーズ・要望を伺い、アセスメントを通じてより良いケアサービスが提供できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や入居時にご家族からお話を伺い、入居後にも面等の機会に積極的に事業所からご様子や状態等をお伝えするようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態や状況等を踏まえ、ご本人やご家族のニーズを把握し、一人ひとりが必要とされるサービスが提供されるように支援を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の視点から生活を考えるよう心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の報告や電話連絡をこまめに行い、関係作りが途切れないよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人など、面会に来ていただきやすい雰囲気や環境となるよう心掛けている	面会時は予約制、場所は居室とし時間や人数の制限は設けず、チェックシートでの体調確認とともに、うがい手洗い等を徹底して受け入れていきます。「ひ孫が生まれました」と訪ねてくる人や、週に二度通う人など、対面での面会は満面の笑みに包まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性に配慮した関わり、またトラブルとならないよう必要な際には仲裁をしている。また、孤立してしまわないよう心掛けている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、支援するよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族よりお聴きしたり、ご本人と接することで意向を把握するよう努めている	日々の気づきを経過記録に残し、毎月のユニット会議で「なぜそのような行動が表れるのか」を話し合っってその人の思いを推し量っています。職員一人につき2名の利用者担当を定め、「担当利用者のことはどの職員よりも詳しく知る」心構えで接しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後においても、ご本人、ご家族からの聞き取りの中で把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な申し送りや記録等を含め、職員間で情報共有を図り、ご本人の生活やケアが途切れることのないよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアやアセスメントで得た情報をユニット会議等で共有・検討し、介護計画に反映させている	計画作成担当者兼介護支援専門員が本人、職員からの聞き取りをもとに介護計画を作成しています。「毎日の習慣である晩酌(焼酎、お茶割、日本酒)を提供する」「体操、歌唱、脳トレ等、関心のあるレクリエーションを提供する」などその人らしい介護計画を視認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し、情報の共有を図るとともに気づきや工夫などはユニット会議で検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思考や生活歴に鑑み、できる限り対応するよう努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の社会資源を活用していく中で、地域との関わりを大切にしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望されるかかりつけ医との医療連携が適切に行われ、必要な医療が滞りなく受けられるよう努めている	全員がかかりつけ医を継続していますが、管理者による受診支援で健康状態が把握され、受診結果は介護経過記録へ入力し、家族には都度電話で報告しています。往診体制はありませんが、馴染みの医師への安心感だけでなく、知人と会える場所にもなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はないが、必要時には関連施設の看護職員との連携を図っている。また、状態の変化や急変の際の受診時に、必要な情報提供が適切に行われるよう、日々の状態把握に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病棟の看護師やソーシャルワーカーとの情報交換を密に行うことで、退院時等のスムーズな受け入れができるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所において、対応出来ること出来ないことを丁寧に説明し、重度化した場合の対応や今後の生活が不安を取り除くよう努めている	契約時は「ご入居者様の状態報告と今後の治療について」の書面をもとに、容体急変時の対応と延命処置への意向確認をおこなっています。重度化が予想される場合は「事業所にいられるのか」といった不安を和らげ、状態に応じた説明と話し合いを十分におこなうこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し定期的な研修を通じて適切な対応が行えるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って対応している。各災害を想定した定期的な訓練を実施し、被災状況に応じて関連施設との連携を図っている。	夜間想定を含め年2回の避難訓練を実施し、河川氾濫による浸水想定区域となっているため土嚢や止水版を用意しています。非常用電源の備えはありませんが、災害の影響が長引く場合には、徒歩5分未満の場所に建つ同一法人施設との連携が可能な体制にあります。	事業継続計画の整備とともに、周知と運用が進められることを期待いたします。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でも注意喚起しながら対応している。内部研修においても、必ずテーマとして取り上げ定期的に振り返り常の関わりに生かしている	「法人理念」「接遇」「認知症ケア」といった内部研修に盛り込み、研修後のレポートで個人の学びを深めています。居室やトイレでの排泄介助は扉を閉めておこなう、尊厳に配慮した言葉かけなど、気づきをユニット会議でも再確認し、職員相互で注意喚起しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の尊重に配慮し、出来る限り、ご本人の思いをお聴きするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や体調等を考慮し、ご本人のペースに合わせて過ごしていただけるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅での生活が継続され、一人ひとりのありたい姿を実現できるよう、衣類等の選択においても、その人らしい姿でいられるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り準備や片付けなど、入居者と職員が共同し行うようにしている	朝食の一部を除いて、食材の買い出しから献立作り、調理に至るまで職員が賅っています。利用者と一緒に近くのスーパーへ出かけて野菜や魚を手に取り、煮物や和え物で旬を味わっています。野菜の皮をむいたり刻んだり、手慣れた包丁さばきは健在です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食事形態を変更したり、食事量、水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った口腔ケアを行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた対応をしている	立位に不安があっても「トイレに行きたい」という意志に沿って、職員二人介助によるトイレでの排泄を支援しています。夜間は安眠優先としてオムツを使用する人もいますが、トイレは居室に備え付けられているため、ベッドを近づけることで対処できる人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取やトイレ誘導、運動を心掛け予防に努めながら、必要時にはそれぞれのかかりつけ医と連携し、一人ひとりに沿った処方をお願いしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や身体状況に配慮しながら、その人に合わせた入浴が出来るよう支援している	湯は一人ひとり入れ替え、好きな入浴剤を選ぶ楽しみがあります。週2回を目安にしていますが、拒否のある人はタイミングを見計らって時間や曜日を替え、保清に努めています。ラジカセで好きな歌謡曲を聞きながら手拍子も弾み、気分よく湯に浸かる人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一律の起床時間や就寝時間を設けず、ご本人の生活リズムを尊重し、安心して休むことが出来るよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の情報共有を必ず行い、薬の内容についても変更等があれば受診結果に加えて情報共有を徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味嗜好に合わせた役割、気分転換が行えるように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な散歩やごみ捨てなど利用者とともに出来る限り行うようにしている。ご家族の希望による外出についても支援している	お参りとして日限地蔵まで出かける人や、見ごたえある花が楽しめる近所の家などコースは人によりまちまちですが、季節を体感しながら毎日散歩に出かけています。コロナ禍でも行ける場所を探し、川根の桜や海辺へのドライブ、大代のジャンボ干支も楽しんでいます。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は施設で管理しているが、ご本人・ご家族から要望がある場合には、適切にご本人が管理できるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居後においても今までの関係が継続できるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や飾り物等を楽しんでいたことで心地良い環境となるよう配慮している	日々の清掃に加え、コンタクトポイントの消毒と天窓を開放した換気を念入りにおこなって衛生環境を保ち、感染防止対策を講じています。壁面制作とともに中庭の花壇で摘んだ花を一輪挿しに添えたり、桜の枝やススキといった季節の花を活け、四季を知らせています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にはソファを配置するなど、空間を工夫し、それぞれが居心地の良い場所となるように心掛けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間については、ご本人にとって馴染みのある家具や愛用品を少しでも持参していただけるようご家族の協力を仰ぎ、ご本人にとって居心地よく過ごすことのできる空間作りに務めている	大きな家具の持ち込みは減っていますが、愛着ある腕時計やペットの写真、アルバムや家族や孫の写真を置いている人もいます。本人が管理できる乳酸菌飲料や梅干しを入れて、冷蔵庫を設置した部屋や、好みの音楽を聞いて読書をする人もあり、居心地のよさがうかがえます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりが安全に生活していただけるよう、共有部や個人の居室環境を整備するよう心掛けている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295400010		
法人名	社会福祉法人陽翔会		
事業所名	グループホームひざり(西ユニット)		
所在地	静岡県島田市金谷代官町802番地の16		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyogyoCd=2295400010-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyogyoCd=2295400010-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年10月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人基本理念である「その人らしく～明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり」に基づき、ご入居者が安心安全な生活を送ることができるよう、個々のニーズに合わせた支援を常に心掛けております。日々のケアの中で気付いたことを分析し、なぜそのような行動をされるのかを考え、その方の「良い面」に注目し、「工夫するケア」を行うようにしています。ご家族においては、対面での面会をしていただけるようになり、面会や電話連絡等においても日々の状態や状況をお伝えし、情報共有に努めております。イベントや外出等の活動も少しずつ以前のように戻りつつあり、やれることを探してご入居者に関わっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

島田市認知症対策検討委員会の委員を拝命した管理者は、「認知症にやさしいまちづくり」に向け、認知症への正しい理解や関わり方の普及啓発への責務を改めて感じつつ、8月より通常開催した運営推進会議では、状況報告及び写真を交えた活動をパワーポイントで伝え、認知症ケアを先導する事業所の存在意義を高めています。認知症を抱えた本人の不安な気持ちを受け止めながら「その人らしさ」に着目し、花壇の手入れに精を出す花好きな人や、毎日の習慣だった晩酌を続ける人もいて、在宅生活を継続できる暮らしを介護計画に位置づけ、理念にもとづいたケアが実践されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく～明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり」を法人理念とし、職員一人ひとりが理念に基づいた介護を行うよう取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ドライブ、散歩、買い物、美容院、かかりつけ病院への外出やを通じて地域との交流を図っている。ボランティアの方々の受入を検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や高齢者あんしんセンターの職員、地区の防災委員と情報交換を行う中で、地域にお住まいの認知症高齢者の相談窓口的な役割が周知されていると感じる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの流行により、書面開催としていたが、対面での会議を再開し、運営状況等の報告と委員の方々のご意見を参考にサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、積極的に取り組んでいる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新任研修や毎月行っている内部研修で、職員倫理の向上とモラルの徹底を意識するよう取り組みを行い、3か月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、状況の確認や検討を行い、身体拘束廃止の推進に向けた介護を行うようになっている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、職員倫理、権利擁護を学ぶ機会を設け、虐待防止に努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連施設の相談員等と情報交換・共有を図り、制度の活用が必要と思われる方に対して適切なアドバイスができるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約や制度改定に伴う変更等、理解しやすい言葉、表現を使う等、丁寧な説明に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、気兼ねなくご意見をご記入いただけるようにしている。また、推進会議の際にご意見をいただくこともあるため、出席されていないご家族には、議事録を配布している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員面談を行い、その中で意見や考えを聞き反映している。各会議においても意見を述べやすい体制、風土作りに努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談時において、職員の意見や思いを聴く機会を設け、働きやすい環境となるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「基本介護チェック表」を作成し、それを基に自己評価を行い、上長が確認をしている。それぞれの能力や経験、特性を踏まえながら、日常的な指導に生かし、内部研修等の内容についても検討している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に一度、市内のグループホームの管理者や計画作成担当者等が集まる、連絡協議会に参加し、意見交換や情報共有に努めている。また、地区のケアカフェへの出席や島田市の「ケアマネットしまだ」に入会し、情報交換や勉強会に参加している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に可能な限り、ニーズ・要望を伺い、アセスメントを通じてより良いケアサービスが提供できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や入居時にご家族からもお話を伺い、入居後にも面等の機会に積極的に事業所からご様子や状態等をお伝えするようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態や状況等を踏まえ、ご本人やご家族のニーズを把握し、一人ひとりが必要とされるサービスが提供されるように支援を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の視点から生活を考えるよう心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の報告や電話連絡をこまめに行い、関係作りが途切れないよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人など、面会に来ていただきやすい雰囲気や環境となるよう心掛けている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性に配慮した関わり、またトラブルとならないよう必要な際には仲裁をしている。また、孤立してしまわないよう心掛けている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、支援するよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族よりお聴きしたり、ご本人と接することで意向を把握するよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後においても、ご本人、ご家族からの聞き取りの中で把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な申し送りや記録等を含め、職員間で情報共有を図り、ご本人の生活やケアが途切れることのないよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアやアセスメントで得た情報をユニット会議等で共有・検討し、介護計画に反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し、情報の共有を図るとともに気づきや工夫などはユニット会議で検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思考や生活歴に鑑み、できる限り対応するよう努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の社会資源を活用していく中で、地域との関わりを大切にしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望されるかかりつけ医との医療連携が適切に行われ、必要な医療が滞りなく受けられるよう努めている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はないが、必要時には関連施設の看護職員との連携を図っている。また、状態の変化や急変の際の受診時に、必要な情報提供が適切に行われるよう、日々の状態把握に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病棟の看護師やソーシャルワーカーとの情報交換を密に行うことで、退院時等のスムーズな受け入れができるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所において、対応出来ること出来ないことを丁寧に説明し、重度化した場合の対応や今後の生活が不安を取り除くよう努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し定期的な研修を通じて適切な対応が行えるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って対応している。各災害を想定した定期的な訓練を実施し、被災状況に応じて関連施設との連携を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でも注意喚起しながら対応している。 内部研修においても、必ずテーマとして取り上げ定期的に振り返り常の関わりに生かしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の尊重に配慮し、出来る限り、ご本人の思いをお聴きするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や体調等を考慮し、ご本人のペースに合わせて過ごしていただけるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅での生活が継続され、一人ひとりのありたい姿を実現できるよう、衣類等の選択においても、その人らしい姿でいられるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り準備や片付けなど、入居者と職員が共同で行うようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食事形態を変更したり、食事量、水分量の把握に務めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った口腔ケアを行っている		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた対応をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取やトイレ誘導、運動を心掛け予防に努めながら、必要時にはそれぞれのかかりつけ医と連携し、一人ひとりに沿った処方を受けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や身体状況に配慮しながら、その人に合わせた入浴が出来るよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一律の起床時間や就寝時間を設けず、ご本人の生活リズムを尊重し、安心して休むことが出来るよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の情報共有を必ず行い、薬の内容についても変更等があれば受診結果に加えて情報共有を徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味嗜好に合わせた役割、気分転換が行えるように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩やごみ捨てなど利用者とともに出来る限り行うようにしている。ご家族の希望による外出についても支援している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は施設で管理しているが、ご本人・ご家族から要望がある場合には、適切にご本人が管理できるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居後においても今までの関係が継続できるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や飾り物等を楽しんでいただくことで心地良い環境となるよう配慮している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にはソファを配置するなど、空間を工夫し、それぞれが居心地の良い場所となるように心掛けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間については、ご本人にとって馴染みのある家具や愛用品を少しでも持参していただけるようご家族の協力を仰ぎ、ご本人にとって居心地よく過ごすことのできる空間作りに務めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりが安全に生活していただけるよう、共有部や個人の居室環境を整備するよう心掛けている		